



学 校 だ よ り

令和2年12月9日 上田市立第二中学校 No.9

○「何のために生きるのだろうか」～校長講話 木藤亜也さんの命の輝きから～

校長講話にて、「生きること」を考えさせてくれる木藤亜也さんについてのお話がありました。

木藤亜也さんは、保健師をしているお母さんに憧れ、小さい頃から「人の役に立つ仕事をしたい」と願っていました。中学3年生になり、転び方がおかしいと大学病院で受診をします。大学病院で、お母さんは担当の山本先生から、「脊髄小脳変性症」という治療方法が未だない難病にかかっていることを告げられました。この病気は、体を動かす指示を出す脊髄と小脳の神経細胞がなくなっていくため、手足が動かない、立てない、言葉が話せない、目が動かさない…。一つひとつできなくなる、自分の体を自覚しながら、病が進行する病気です。

高校入試を控えた亜也さんに、お母さんは病気のことを亜也さんに話せませんでした。亜也さんはだんだん歩けなくなりながらも受験勉強をし、目標の豊橋東高校に入学します。担当の山本先生は、亜也さんに日記帳をプレゼントしました。この日から亜也さんの日記は綴られます。友だちに支えながら始まった病院生活。

「私は友だちと一緒に道なんて絶対に望めない。私には選ぶ権利なんてない。」

友だちと一緒に行動ができない自分、友だちに迷惑をかけている自分を日記に綴ります。夏休みの入院で、亜也さんは山本先生に自分の病気のことを尋ねます。

「先生。私が歩けるのはいつまで？座ったままでもできる仕事ってあるよね。私にも何かできるよね」

亜也さんの病気は進行し、友だちの介助なくしては生活が出来なくなります。1年生の冬。歩くことが難しくなった亜也さんは、豊橋東高校を退学し、養護学校に転入することを決めます。その日の日記。

「身障者という思い荷物を一人で背負って生きていきます。なんて、格好のいいことを言えるようになるには1リットルの涙が必要だったし、これからももっといると思います。耐えておくれ。私の涙腺よ。」

養護学校に転入した亜也さんは、体が動かない分、頭を使って「人の役に立ちたい」と毎朝4時に起きて大学に向けた受験勉強をします。

しかし同時に病気の進行も速くなります。足が前に出なくなり、車椅子での移動が増え、話すテンポが遅くなり、顔に表情が表せなくなり、歌も歌えなくなりました。

高等部3年生。病気の進行により、願っていた大学進学もあきらめなければなりません。

亜也さんは、「書くこと」に自分の全ての力を注ぎます。亜也さんにとって、最後に残された自分の生きる証だったのです。

「先生も友だちもみな健康です。悲しいけれどこの差はどうしようもありません。不幸じゃない。不便なだけだ。山本先生。本当のこと教えてくれてありがとう。生きたいのです。胸に手を当ててみる。どきどき音がする。心臓が動いている。嬉しいな。私は生きている。」

しかし21歳の時、ついに亜也さんはベッドから起き上がれなくなります。お母さんは亜也さんの書いた日記を本にすることで、人の役に立てるのではないかと提案し、「1リットルの涙」という1冊の本にまとめます。

「お母さん まだ生きたい。」

亜也さんは、自分の命を精一杯輝かして、25歳10ヶ月の生涯を閉じます。亜也さんの書き残した「1リットルの涙」は、180万部を発行するベストセラーとなり、テレビ化され、映画化されました。亜也さんの残した多くの言葉は、今もたくさんの方の心に勇気を与えています。

苦しさや不安は生きている中でたくさん出てきます。でも、それに負けず、前向きに一生懸命生きることで、命は輝いてくる。そして、一人ひとりのその命の輝きが『生きる意味』なのではないかと、亜也さんに教えられます。

○令和3年度生徒会、本格始動に向けて

11月12日(木)は、令和3年度の生徒会正副会長を決定する立会演説会、そして選挙が行われました。それぞれの候補者が、「二中の引き継ぐべき伝統とは何か」そして「新たに創造していくべき活動とは何なのか」について述べながら、未来の二中に求めたい姿や願いを熱く語ってくれました。

令和3年度の新たな生徒会に向けて描いている願いを、そして夢を、みんなで実現しましょう。

令和3年度生徒会 新三役と抱負

会長 関 啓佑さん…公約で伝えてきたことを大切にして、全校が関われる生徒会を創ります。
男子副会長 小林 明快さん…一人一人の意見が大切にされ、みんなが笑顔で生活できる学校にします。
女子副会長 森 ほのかさん…生徒会三役はもちろん全校の皆さんとも協力してよりよい生徒会にします。



○各学年の学びの姿から

1学年 リベルテ(障がい者支援センター) との交流 ～地域のイベントに参加しながら～



夢中になって製作する1年生

～ふり回りから～

リベルテの皆さんと段ボールハウスを作ることで交流しました。当日は忙しい日程になりましたが、一緒に活動したので、とても楽しい時を過ごすことができました。

1学年では、多くの人とのかかわりの中から、願う自分自身の姿を追い求めていこうと、地域と交流活動を行っています。これまでもリベルテ(障がい者支援センター)の方々とのイベント活動を通して、共に活動してきました。

今回はその一環として、大手町の旧「竹の湯」さんにて、段ボールハウスを製作するイベントに参加しました。ペイントは清明小学校2学年の皆さん、外壁は二中1年生というように、分担しながらの製作となりました。

飾り付けの素材によって色や形を工夫し、イメージを広げながら夢中になって製作する姿がたくさん見られました。これからも、交流を通して、多くの方とかがわって欲しいと思います。

2学年 部落差別について学びを続ける ～歴史の中での姿を追いながら～

2学年は部落差別について学び続けています。これまでの学習では、歴史の中で差別される人々が社会にどのように位置づけられてしまったのか、また、差別をしてしまう人の心の姿とはどのようなものなのか、について追究を深めてきました。

今回は、差別をされてきた人々が、差別に屈することなく力強く生き、ひたすら勉強を重ねて、社会の役に立つ高度な技術を開発し、医学や土木等の分野等で活躍していたことを学びました。

そして、差別は歴史上のことだけではなく、今も取り組んでいかなければならない課題であることを改めて感じ、その思いを一人一人が標語にして表現しました。

～ふり回りから～

人の差別してしまう心が大きくなると、差別を当たり前のようにする世の中になってしまう恐ろしさを感じました。差別に負けずに立ち向かった人々に、命をかけて差別と闘う強さがあると思いました。



廊下に掲示された人権標語

3年生 私たちが地域に向けてできること ～二中祭総務会企画を受けて～



一枚一枚、丁寧に作成した葉

～ふり回りから～

二中祭の総務会企画で、地域のために活動するアイデアがたくさん出ましたが、本当に実行できてよかったです。少しでも地域の方に喜んでもらえて、励ますことになれば嬉しいです。

今年度の二中祭総務会企画では、「上田地域の現状と私たちにできること」について話し合いました。その後3学年では二中区で自分たちができることについてアイデアを出し合ってきました。その結果、「コロナで利用者が減少している上田図書館を少しでも盛り上げようと、花びらを張りつけた葉を置く」、「コロナで面会できない福祉施設のお年寄りを元気になっていただくうちぎり絵をつくって送る」、さらに「福祉施設にA3サイズのメッセージカードを作成して掲示いただく」ことにしました。

二中区の地域の皆さんに3年生の思いが伝わり、地域と共にこのコロナを乗り越えなければと願っています。

☆☆△▲今後の予定○●□■

12月 9日 (水) 保護者懇談会①	1月 6日 (水) 給食費引落日
10日 (木) 保護者懇談会②	7日 (木) 3学期始業式
11日 (金) 保護者懇談会③	8日 (金) 3年総合テスト
14日 (月) 保護者懇談会④	11日 (月) 成人の日
15日 (火) 保護者懇談会⑤	アンサンブルコンテスト東信 B
学年費引落日	12日 (火) PTA 総務委員会
17日 (木) 生徒総会・地区生徒会	15日 (金) 学年費引落日
18日 (金) 生徒会引継会	18日 (月) 学校へ行こう週間③
25日 (金) 二学期終業式	～1月22日 (金) まで
26日 (土) 年末休業～1月6日 (水) まで	25日 (月) 中学校説明会
	28日 (木) 漢字検定③